

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-202440

(P2010-202440A)

(43) 公開日 平成22年9月16日(2010.9.16)

(51) Int. Cl.	F I	テーマコード (参考)
<b>CO1G 23/00 (2006.01)</b>	CO1G 23/00 B	4G047
<b>HO1B 3/00 (2006.01)</b>	HO1B 3/00 H	5G303
<b>HO1B 3/12 (2006.01)</b>	HO1B 3/12 304	
	HO1B 3/12 331	

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願2009-48752 (P2009-48752)	(71) 出願人 599073917 財団法人かがわ産業支援財団 香川県高松市林町2217番地15
(22) 出願日 平成21年3月3日(2009.3.3)	(71) 出願人 304028346 国立大学法人 香川大学 香川県高松市幸町1番1号
(出願人による申告) 平成20年度、経済産業省、地域イノベーション創出研究開発事業、産業技術力強化法第19条の適用を受ける特許出願	(74) 代理人 100089222 弁理士 山内 康伸
	(74) 代理人 100134979 弁理士 中井 博
	(72) 発明者 近田 司 香川県高松市林町2217-43 財団法人かがわ産業支援財団高温高压流体技術研究所内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 板状チタン酸カリウムリチウムの製造方法

(57) 【要約】

【課題】 P Z T系に替わる非鉛系の新しい圧電材料として期待される板状チタン酸バリウムの製造方法に関し、これの中間生成物である板状チタン酸カリウムリチウムを従来法よりも高速かつ安定して製造出来る製造方法を提供する。

【解決手段】 Ti、KおよびLi源原料を水系媒体に添加混合後、この混合物にマイクロ波を照射することを特徴とする板状チタン酸カリウムリチウムの製造方法であり、反応操作は回分式のみならず連続式でも可能となる。これまでの欠点であった反応の長時間化が回避されて反応時間が劇的に短縮される結果、顕著な経済性の向上が図られることになる。さらに、従来法では不可能であった低原料濃度下での反応進行も可能となり、反応操作の安定性の格段の向上をも獲得出来る。

【選択図】 図1

